

令和5年市町村広報コンクール審査票(市部)

○広報紙の名称「広報ぬまた 11月号」

評価された点

■全体

・暮らしの坂の特集は圧巻。沼田の特徴が出ている。写真が良く、河岸段丘と石墨棚田を取り上げて幅が広がった。表紙の写真との連動性もある。

・特集のほかにもフォトさんぽやアート・アンバサダー、歴史探訪、地域おこし協力隊NEWSなど内容が充実している。

・上質な旅行雑誌を読んでいるかのような内容で、学びも多く、読んでいて大変面白かった。地形から生み出された坂とともに生きる街の暮らしを、効果的な写真と物語を組み合わせ、大変充実した内容だった。それぞれの坂の写真も、暮らしぶりや特徴が伝わってきて、相当アングルやテーマを考えて一枚一枚撮影したのだろうと思った。

・坂を巡る人たちへの取材も力が入っており、交通安全の旗をふる千明さんや、坂に済んでいるおばあちゃんなど、取材先の選択のセンスも光っている。地域に根ざした、でも見過ごされがちなテーマに焦点をあて、丁寧な取材で街の今を伝える素晴らしい内容だと思った。棚田や沼田城の夕闇の写真も見事なレイアウトだった。

・特集面以外にも、写真を大きく、分かりやすくレイアウトすることで、市民の表情があふれ、市民の息づかいが伝わってくる内容になっていると感じた。

・特集「暮らしの坂」…地域の地理的、歴史的背景を踏まえた企画。散策ガイド的に読めて面白いし、学びがある。写真の多くに市民の姿が写っているのも広報紙にはふさわしい。保存しておきたい内容。取り上げた坂などの位置を示す地図があるともっと良かった。市民なら知ってて当然？

・読みやすく、見やすく、記事内容の選定も今何を伝えたいかが明確。情報量の多いお知らせページも見やすく、わかりやすい。

・文章が読みやすい。分量が多くても、最後まで飽きなかった。

・特集を始め、写真をふんだんに使っている。俯瞰やアップも効果的。

■特集

・特集「地形から生み出された暮らしの坂」は、市民にとっても再発見と親しみを再確認する内容であり、市民以外の読み物としても興味深くまとめられていて良い。写真の撮影技術、選定も良い。

・冒頭の坂特集は市街地が河岸段丘の上にある沼田市の地形に着目した好記事。楽しく読めた。

・写真が「コスモス風に揺れ 坂道ダッシュ」の狙い通り。「主な内容」はシンプルで、すっと頭に入る。

・手間暇かけた力作。沼田に住んでいない人でも「へー」と興味を引かれる内容だ。

・坂の話から河岸段丘、棚田につなげる流れがスムーズで、沼田の特徴をよく表している。

■その他

・裏表紙に並べた「編集後記」「今月の表紙」が目にとまる。

令和5年市町村広報コンクール審査票(市部)

○広報紙の名称「広報まえばし 8月号」

評価された点

■全体

・表紙を含め7ページ余りを使った戦争の企画は、複数の観点から戦争を取り上げており、継承の重要性を訴えている。

・戦後77年の夏、前橋空襲という硬派なテーマを明確に打ち出した企画にまず拍手を送りたい。表紙の写真から引き込まれ、思わず手にとってみたくなった。前橋空襲の歴史的な経緯やデータに加え、体験者へのインタビューもあり、資料としても読み物としても貴重な内容になっていると感じた。市の広報紙は全市民の家に配布されるので、子どもからお年寄りまで、それぞれの視点で自分たちの街を知ることのできる媒体のテーマとして、この号はぴったりだと思った。

・目次のレイアウトも分かりやすく、内容も豊富で各ページとも見やすい工夫をしているのが伝わってきた。これからも市民目線を大切に、市として伝えるべきテーマを丁寧に伝えていって欲しいと期待したい。

・特集「未来の平和のために」は、戦災都市として、毎年取り上げていいテーマ。学校で児童生徒に読んでもらう教材、資料としても有用だと感じた。

・8月号にふさわしい内容。「マイナポイント第二弾」を別冊にした工夫も良い。

・「戦争の記憶を引き継ぐ」というメッセージが込められている。ウクライナバレエ団の話を盛り込み、その意義がより強調された。

■表紙

・右の手書きの文字と人物の表情がリンクし、戦争と人生を感じさせて、読者にとって印象的で感慨深い表紙となった。

・空襲体験者の柔和な表情が、平和の尊さを感じさせる。

■特集「未来の平和のために」

・ウクライナ侵攻が連日報道される中、前橋でもあった悲惨な記憶を未来につなぐための特集は意義がある。

・8月号で先の大戦にこだわる姿勢が素晴らしい。若手市民編集員に取材を任せたのも、記憶継承の意味から高ポイントである。

令和5年市町村広報コンクール審査票(市部)

○広報紙の名称「広報しぶかわ 12月1日号」

評価された点

■全体

・フィルムコミッションの特集は、活動内容や実際のロケ地のほか、撮影した映画の監督と俳優も登場し充実した内容だった。

・行政情報だけでなく、全体を通して特集をはじめとする多彩な記事が取り上げられていて、読み応えがある広報になっている。

・最近テレビや映画で群馬の風景を見ることが多いと感じている人が多い中で、「フィルムコミッション」をテーマに、市内のロケ地を紹介しながらあまり知られていないフィルムコミッションの仕事の内容を分かりやすく伝えており、とても面白い内容だった。渋川と言えば、渋川清彦さんと伊香保。特集の中ではその二つをきちんと押さえ、渋川さんの声も伝えてくれて、充実の内容だと感じる。フィルムに見立てたレイアウトやエキストラ募集など、目を引く工夫もされており、力作だと思った。

・特集面以外にも、市長コラムや地域興し協力隊の欄など、レイアウト含めて適切な分量で掲載されており、市政や新たに市に暮らし始めている人たちへの親近感も高まる内容だと思った。

・私のふるさと紹介も、なかなかのアイデア企画だと感じる。

・特集「フィルムコミッションのススメ」は、地域の魅力を見直すきっかけになりそう。

・「みんなのひろば」「わくわく美術室」など市民参加型のコーナーが多く、好感が持てる。

■表紙

・白地に、迫力ある歌舞伎の写真が映える。

■特集

・特集「フィルムコミッションのススメ」は、市民にとっても興味関心を持てる内容で、読者は、市内へのロケ誘致活動に共感を得られるし、地元自慢にもなるし、良い企画だと思う。

・フィルムコミッション事業を詳述している点。自分も勉強になった。

・「撮影支援の流れ」「ロケ地マップ」はビジュアルに工夫している。支援実績のグラフにつけた説明も分かりやすい。

■その他

・12、13ページの「補正予算による生活・経済支援策」は、市民が一番知りたい情報だろう。見開きで手厚く紹介した。

・コロナワクチンの確認チャート、決算報告の用語解説など、かみ砕いて伝えようとしている。